

教育・研究等業績一覧

履 歴					
フリガナ	ハタダ ヒデオ	性別		生年	1962年
氏名	畠田 英夫	男			
所属	農学ビジネス学科	身分	教授		
学 歴					
年 月	事 項				
1988年3月	東北大学 経済学部 経済学科 卒業 経済学士				
1988年4月	東北大学大学院 経済学研究科 博士課程前期 入学				
1990年3月	東北大学大学院 経済学研究科 博士課程前期 修了				
1990年4月	東北大学大学院 経済学研究科 博士課程後期 進学				
1993年3月	東北大学大学院 経済学研究科 博士課程後期 単位取得退学				
1996年11月	「J. -B. セーの経済学方法論とその適用」にて「博士(経済学)東北大学」を取得(東北大学：経博第25号)				
職 歴					
年 月	事 項				
1993年4月	東北大学 経済学部 文部教官助手として任用				
1998年4月	拓殖大学北海道短期大学 農業経済科 助教授 採用				
2000年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科(学科名改称) 助教授				
2001年12月 ～2002年4月	カナダ州立フレーザー・バレー大学 客員教授				
2007年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 准教授(職位名改称)				
2009年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 教授				
2011年4月 ～2013年3月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科長				
2014年4月	拓殖大学北海道短期大学 農学ビジネス学科(学科名改称) 教授 現在に至る				
教 育 業 績					
1 担当授業科目(2019年度)					
科 目 名	出講場所	期別	曜日	時限	備 考
キャリアスキル	301	前期	火	1	
マクロ経済学	302	前期	火	4	
ビジネス実務演習Ⅰ	303	前期	水	3	
経済学	302	前期	水	4	
2年ゼミナール	301	前期	木	3	
1年ゼミナール	301	前期	木	4	
経済学史	302	後期	月	3	
キャリアスキルBクラス	302	後期	月	4	
ビジネス実務演習Ⅱ	303	後期	火	2	
ミクロ経済学	302	後期	水	2	
現代経済論	302	後期	水	3	
2年ゼミナール	205	後期	木	3	
1年ゼミナール	205	後期	木	4	
地域プロジェクト	303他	通年	木	5	
地域特別演習	303他	通年	木	5	
卒論演習	390他	通年	火・金	5	

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>1) 現行授業の目標と教育効果</p> <p>a. 経済理論関連講義科目</p> <p>基本的な理論の枠組みと現実の経済との関係を理解してもらうことを目標としている。「マクロ経済学」「ミクロ経済学」ではその基本的な分析ツールを理解することが目標である。効果としては、経済時事の個別の問題を理論的な枠組みの中でどのように位置づけ、経済全体の中でどのように考えればよいかを学ぶ。</p> <p>「経済学史」では、歴史上の経済学者の核となる考え方を理解し、それぞれの時代の経済問題との関連を理解することが目標である。同じ経済問題に対しても多様な考え方が存在することを理解できるように、主流派の学説だけでなく当時異端と呼ばれた非主流派の学説も適宜紹介している。</p> <p>b. ゼミナール関連科目(「1年ゼミナール」・「2年ゼミナール」・「キャリアスキル」)</p> <p>学生同士の議論を通じて、大学での勉強に必要な各課題の問題発見から解決までを自主的にできるようにすることが目標である。効果としては、適切な課題設定の仕方と情報リテラシーを身につけることができる。また、適切な読点の打ち方を学び、文章構成の仕方を学ぶことを通じて論理的な文章を書けるようになる。</p> <p>2) 自己評価</p> <p>a. 経済理論関連講義科目</p> <p>一科目全体の構成・各授業内での進行の8割超を基礎の理解の徹底に充てて授業・講義を進めている。一つ一つの説明については、図表・比喻・数値例など多面的な説明を心掛け、グループ課題や小テストを随時実施することで、学生が大枠のイメージと要点を把握できるように工夫している。多面的な説明スタイルや授業内での課題演習は学生の理解を促すのに役立っている。</p> <p>b. 演習科目(「1年ゼミナール」・「2年ゼミナール」・「キャリアスキル」)</p> <p>授業内外で学生同士のコミュニケーションを図る機会を設けて学生同士の議論の活発化を心がけている。ともしちづくりも兼ねたグループ課題も適宜取り入れることによって、相互の文章評価・課題討論も積極的に行っている。</p>																		
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>授業の分かりやすさ・学習の満足度については学生の評価はおおむね高い。</p> <p>講義はスライド中心の授業形式にしている(平成18年度より)。そのほか、動画・インターネットなど多様なメディアを活用して授業進行をしている。平成30年度からリアクション・ペーパーを全授業科目に導入し、学生とのコミュニケーションを広く深く授業に取り入れることとした。</p> <p>今年度から講義科目の全科目について、講義スライド・講義資料をインターネット上の共有データとして閲覧できるようにした。従来は学期初めに講義資料等をまとめてBlackboardに掲載し、新データ等の追加配布物のみ授業時に配布する方式をとっていた。学生が配布資料を紛失するのを防止するのがきっかけであったが、これにより適宜学生の必要に応じて授業資料が活用できるようになった。スライド・資料のこの扱いについては好評であり、講義スライドの公開によって「復習をするようになった」他、学生の受講スタイルにも変化が見られるようである。なお、講義資料は授業内で取り上げられないものを中心として、より進んだ学習の手引きとして活用することを当初の目的としていた。学生の声に応じて学期途中から欠席学生の自習や授業内容の振り返りも可能な形で提供するように改善した。</p> <p>その他、近年の取組については以下のとおりである。</p> <p>年度初めに到達目標(学習成果)を明確に意識してもらい、到達目標をもとに授業をいくつかのユニットに分けて授業構成をしている。単元ごとに到達目標との関係を確認しながら授業を進めている。また、全講義科目で単元ごと的小テストを導入し、成績評価もこれを中心とした(平成27年度より)。授業内容のまとまりや講義全体の構成を意識させる効果もあった。</p> <p>授業進行と取り上げる内容をさらに取捨選択し到達目標を下げないよう工夫して授業構成をしている。また、前年度導入したリアクション・ペーパーは学生との有意義なコミュニケーションと学期間中授業改善等にたいへん役立つことがわかった。引き続き活用の幅を広げ、教育効果の向上に努めたい。</p>																		
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>各科目とも「易から難へ」に留意した演習問題を作成し、授業時の演習や予復習課題として用いている。</p> <p>講義科目では、予習・復習に役立てるため、授業スライド・資料・練習問題をインターネット上に共有データとして公開している。随時時事的なデータの更新をしている。</p> <p>その他、共著ではあるが『経済学の現在』(昭和堂)は、従来の関連図書では見えにくかった経済学発展の歴史の流れとして理解するうえで利点があるため、「経済学史」の参考図書として活用している。</p>																		
<p>5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要10件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>1998年度～現在に至る</td> <td>一般編入学試験対策(経済学・小論文・面接)指導</td> </tr> <tr> <td>1999年度～2004年度</td> <td>男子バスケットボール部顧問</td> </tr> <tr> <td>2004年度</td> <td>ヤング部顧問</td> </tr> <tr> <td>2004年度</td> <td>第5回日経STOCKリーグ参加チーム顧問・指導</td> </tr> <tr> <td>2005年度～2006年度</td> <td>経済理論研究会 顧問</td> </tr> <tr> <td>2003年度～現在に至る</td> <td>ダンス部(3D)顧問</td> </tr> <tr> <td>2013年度～現在に至る</td> <td>「あさひかわキッズタウン」他 ボランティア指導・引率</td> </tr> <tr> <td>2016年度～現在に至る</td> <td>サッカー部顧問</td> </tr> <tr> <td>2018年度～現在に至る</td> <td>深川を歩く会 顧問</td> </tr> </table>	1998年度～現在に至る	一般編入学試験対策(経済学・小論文・面接)指導	1999年度～2004年度	男子バスケットボール部顧問	2004年度	ヤング部顧問	2004年度	第5回日経STOCKリーグ参加チーム顧問・指導	2005年度～2006年度	経済理論研究会 顧問	2003年度～現在に至る	ダンス部(3D)顧問	2013年度～現在に至る	「あさひかわキッズタウン」他 ボランティア指導・引率	2016年度～現在に至る	サッカー部顧問	2018年度～現在に至る	深川を歩く会 顧問
1998年度～現在に至る	一般編入学試験対策(経済学・小論文・面接)指導																		
1999年度～2004年度	男子バスケットボール部顧問																		
2004年度	ヤング部顧問																		
2004年度	第5回日経STOCKリーグ参加チーム顧問・指導																		
2005年度～2006年度	経済理論研究会 顧問																		
2003年度～現在に至る	ダンス部(3D)顧問																		
2013年度～現在に至る	「あさひかわキッズタウン」他 ボランティア指導・引率																		
2016年度～現在に至る	サッカー部顧問																		
2018年度～現在に至る	深川を歩く会 顧問																		
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>2000年9月</td> <td>東北 北海道地区大学一般教育研究会 参加</td> </tr> <tr> <td>2004～2007年9月</td> <td>東北 北海道地区大学一般教育研究会 参加</td> </tr> </table>	2000年9月	東北 北海道地区大学一般教育研究会 参加	2004～2007年9月	東北 北海道地区大学一般教育研究会 参加														
2000年9月	東北 北海道地区大学一般教育研究会 参加																		
2004～2007年9月	東北 北海道地区大学一般教育研究会 参加																		

研 究 業 績				
1 研究分野・活動 (記述式：350字以内)	研究分野：「19世紀フランス経済学と近代的経済理論の形成」 経済理論史研究はイギリス経済学をメイン・ストリームとして研究蓄積が重ねられてきたが、アダム・スミス革命(T.W.ハチスン)・限界革命といった大きな断絶を抱えている。しかし、フランス経済学の発展を含めて考えてみると、革命史観によって捉えられがちな経済学の発展を、知の連続的な成長として理解し直すことができる。18世紀後半のフランス経済学が経済学史上大きな役割を果たしたのと同様、19世紀に入っても経済学の発展に主導的な役割をときに果たしてきた。J.-B. セーは、19世紀前半の経済学の発展に大きな役割を果たし、後の限界革命の素地を作ったフランスの経済学者である。彼の経済学およびイギリス経済学との交流の研究を通して19世紀経済学の発展を連続的に捉え直すことが目標である。			
2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内)	上記目標のために、これまで J.-B. セーの経済学方法論・市場価格論・社会構成観・企業者論の詳細を検討してきた。企業者論は理論的に未成熟な分野でもあり、セーの理論的な貢献をその発展に役立てる必要がある。また、セーの民間主導の経済進歩観は現代的な意義も大きい。これらのセー経済学の理論的検討の他、彼と同時代のリカード・マルサスといったイギリス経済学者との理論的な交流の研究蓄積は、特定分野を除いては必ずしも豊富でない。上記論点その他のイギリス経済学との関係およびその交流も今後の課題となる。これらに加えて、セーを中心として、ケネー・ワルラスといったフランス経済学の中での発展関係を明らかにすることにより、フランス経済学は学説史上の地位を確固としたものにする可以考虑している。			
3 研究助成等 (主要5件程度)	(1) 文部科学省科学研究費 特になし			
	(2) 学内 特になし			
	(3) 学外 特になし			
4 資格・特許等 (主要3件以内)				
著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
(学位論文)				
J. -B. セーの経済学方法論とその適用	単著	1996年3月	東北大学経済学部	19世紀フランスの経済学者 J. -B. セーが、方法論的な検討のもとにアダム・スミスの経済理論を改変し、価格論・企業者論を明示的に経済理論の中に取り入れて近代的な経済理論の礎を築いたことを明らかにした。
(著書)				
ブライアン・マックリー「国際通貨制度における円の将来の役割について」(『現代の資本主義 構造と動態』pp. 289-305)	共訳	1992年	御茶の水書房	国際通貨制度における日本「円」の重要性の高まりと今後の可能性に関する、ブライアン・マックリーンの論文の翻訳。
国際競争力と政府の役割- M. E. ポーターのクラスター政策 (『資本主義の現実分析』pp. 50-64)	単著	2000年5月	昭和堂	経営学者 M. E. ポーターによる、グローバル化の進む社会における政府の役割の議論を通じて、中央・地方政府の政策ミックスとしての積極的なクラスター政策を展開することが今日の日本に求められていると論じた。
デステュット・ド・トラシ(『経済思想史辞典』p. 259)	単著	2000年6月	丸善	フランス経済学者デステュット・ド・トラシの解説。
フランス経済学(『経済学の現在 v. 3』pp. 74-86)	単著	2002年4月	昭和堂	これまで断片的にしか論じられることのなかったフランスの経済学の歴史を自由主義と保護主義の対立を基軸にして一つの流れとして解説した。
(学術論文)				
セー経済学の範囲と方法	単著	1991年11月	研究年報 経済学 53 (pp. 41-57)	セーの経済学方法論が古典派の方法論において一典型をなしていることを明らかにし、経済学方法論の歴史における最初期の論者として位置づけた。
セー市場価格論の形成- 『概論』各版の推移と検討	単著	1996年9月	研究年報 経済学 58 (pp. 91-109)	J. -B. セーの価格論の分析が限界革命以降の近代経済学の流れの萌芽を示し、時代的な制約を乗り越え、主にマーシャルにつながる均衡論の先駆けとして明らかにした。

シンガポールの情報通信政策- IT2000 ビジョンとその現況	単著	1997年3月	南アジア研究会 10 (pp. 23-28)	先進的な情報通信政策を推進してきたシンガポールの情報社会ビジョンとその進捗状況の解説。
J.-B. セー『オルビー』における社会制度の改革	単著	2009年3月	拓殖大学論集 政治・ 経済・法律研究 (11-1)	これまであまり取りあげられることのなかった、J.-B. セーの初期の著作『オルビー』を対象として、その出版経緯・概要とその特徴を検討した。
J.-B. セーの企業家と経済システム観	単著	2009年3月	拓殖大学 経営経理研究 (85)	セーの企業家論は、ミクロ的な枠組を超える意義をもち、経済における新しい主役を見いだしたものであり、経済システムの新しい見方を提示するものであったことを明らかにした。
(その他)				
セー価値論の基本構造- 『概論』初版と第2版の異同を中心にして	単著	1992年6月	経済学史学会東北部 会	『概論』初版と第2版の大幅な価値論諸章の変更における理論的継承と発展を検討し、スミス価値論からの発展と近代的理論の萌芽を明らかにした。
セー価値論の基本構造- 『概論』各版の推移と検討	単著	1993年11月	経済学史学会第57回 全国大会	従来のセー価値論の解釈を問い直し、彼の主著『経済学概論』の初版から第5版までの各版異同を追跡し、同時代の経済学者と比較して非常に近代的な分析を行っていたことを明らかにして、学説史上に積極的な位置づけを与えた。
田園地域における生活文化と景観 (iii-vi)	共著	2000年11月	北空知圏振興協議会	平成12年度北育ち元気村まちづくり海外研修派遣事業として行われたヨーロッパ海外研修(スペイン・スイス・イタリア)のコーディネーター報告として、研修事業を踏まえて、今後の地域づくりを考察した。本稿では、「参加と連携」を進めながら「既存資源のパッケージ化」とその積み重ねを通じて、「統一的な地域デザイン」を考え、北空知の交流産業における競争優位を開発することの重要性を提案している。
『オルビー』にみる J.-B. セーの社会認識の特徴	単著	2008年12月6日	経済学史学会北海道 部会(北海道大学)	J.-B. セーの初期の著作『オルビー』を、晩年のセーが自著に記した「自筆メモ」を手がかりにして、セーの社会認識をしめす議論を取りあげ、その特徴を明らかにした。

研究業績(過去3カ年分)

著作数	論文数	学会等 発表数	その他	国際的活動 の有無	社会的活動の有 無
0	0	0	0	無	有

学内運営業績

1 役職、各種委員会等 (主要10件程度)	1998年度	広報委員会 委員、地域・国際交流委員会 委員、 ネットワーク管理運営委員会 委員
	1999年度～2001年度、2010年度	入試広報委員会 委員
	2000年度、2009年度	教務委員会 委員
	2002年度～2003年度	入試広報委員会 委員長
	2002年度～10年度、2012～15年度	奨学生委員会 委員
	2002年度～2018年度	総合委員会 委員
	2004年度～2008年度	教務委員会 委員長
	2009年度～2018年度	自己点検・評価委員会 (委員・委員長代行・副委員長)
	2009年度～2018年度	拓殖大学北海道短期大学 ALO (短期大学基準協会)
	2011年度～2012年度	経営経済科長
	2016年度～2018年度	図書委員会 委員長
	2017年度～2018年度	自己点検・評価委員会 作業部会 委員

学 外 活 動 業 績

1 本学以外の機関（公的機関・民間団体等）を通じた活動 （主要 10 件程度）	2000年 3月～11月	北育ち元気村まちづくりヨーロッパ海外研修コーディネーター
	2005年 4月～2009年 3月	北海道深川西高等学校学校評議員
	2011年 8月～現在に至る	深川市有償運送運営協議会 委員・委員長
	2013年 6月～2017年 5月	旭川方面深川警察署協議会 委員
	2013年 6月～現在に至る	深川市協働のまちづくり推進市民協議会 委員
	2014年 5月～現在に至る	中心市街地活性化市民会議 会員
	2014年 6月～2014年 7月	深川市地域公共交通会議 委員長
	2014年 6月～現在に至る	コンピュータサービス技能評価試験北海道試験委員
	2015年 7月～現在に至る	深川市地域公共交通活性化協議会 委員長
	2017年 5月～10月	町内会課題研究会 委員
	2019年 6月～現在に至る	深川市庁舎整備検討会委員 副委員長
2 学会・学術団体等の活動 （主要 10 件程度）	1991年 6月～現在に至る	経済学史学会 会員
	2007年 10月～現在に至る	経済教育学会 会員